

# 相模経済新聞 2021年7月10日号掲載

相模原

## 白隠禅師の作品展

### デジタル技術で実現

「駿河には過ぎたるものが2つあり、富士のお山に原の白隠」と称される臨済宗中興の祖で江戸中期の禅僧、白隠慧鶴（はくいん・えかく）。住職を務めた静岡県沼津市の白隠宗大本山松蔭寺に伝来する白隠の禅画と墨蹟の価値は、富士山と並び称されるという。

松蔭寺と日印文化交流ネットワークは18日、ニブツダと白隠禅師展」を相模原市民ギャラリー（中央区相模原）で1日限定で開催する。白隠の掛け軸など43点、インドの仏跡地などを撮り続ける写真家・丸山勇氏の写真パネル12点が展示される。

白隠の展示作品は、松蔭寺と旧熊本藩主細川家伝来の美術品を管理する永青文庫の収蔵品を、超高精細デジタルスキャンニングによって再現したもの。ハシモトコーポレーション（同市中央区宮下）のデジタル版画技術により実現した。レンズから8ミクロン



ハシモトコーポの橋本社長（左）と堀内事務局長

間隔で作品の質感・色彩を捉え、これまでのカメラ撮影では捉えきれなかった高解像度で作品をデジタルデータ化。大型出力機で実寸に出力した。芸術品のデジタル化は文化財保護の観点から注目を集めている。貴重な作品を展示による劣化や破損などから守り、教育や研究を目的とした一般公開を可能にしようというもの。デジタルデータであれば劣化せず、原画を運搬するリスクやコストも削減できる。

今回の展覧会は、白隠の原画を高精細デジタル化した初の作品展となる。内覧会では、松蔭寺・宮本圓明管長の講和、日印文化交流ネットワーク・堀内伸二事務局長の講演なども行われる。

一般公開は同日午後13時から15時まで。入場無料。26、27、28日には東京都千代田区の在日インド大使館で同作品の展覧会が開催される。相模原を皮切りに、各地で開催されていく予定。



## 混迷する社会を照らす光明 ブツダと白隠禅師展



**開催日** 令和3年7月18日（日）  
**内覧会** 午前10時～12時  
※招待関係者のみ対象  
**一般公開** 午後1時～3時  
※どなたでもご自由に観覧できます【入場無料】  
**会場** 相模原市民ギャラリー  
相模原市中央区相模原1-1-3セレオ相模原4階

- 主催：白隠宗大本山松蔭寺・日印文化交流ネットワーク
- 応援：インド大使館
- 協賛：株式会社ハシモトコーポレーション
- 後援：（公財）永青文庫・（公財）文化財保護芸術研究助成財団  
（公財）日印協会・相模原市・相模経済新聞社
- 協力：スタジオオレオ・北辰・UNYdesign

ブツダと白隠禅師展 相模原実行委員会〈事務局〉 相模原市中央区宮下2-11-4  
（株）ハシモトコーポレーション Tel 042-774-0964 fax 042-774-0019  
 メール kinshi-h@hashico.co.jp